

第2回 福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会 議事録

日 時	令和3年9月2日(木)14:00～15:30	
場 所	企業局 301会議室	
出席者	<p>&lt; 委員 &gt;  南保委員長 田村委員 寺尾委員 林委員 吉澤委員(リモート出席)</p> <p>&lt; 企業局 &gt;  土田経営部長 海道事業部長 朝倉経営部次長 竹澤事業部次長  経営管理課(荒谷課長 廣瀬副課長 白崎課長補佐 松村主幹 北矢主幹  伊藤剛主査 小松主査 塩谷主幹)  上下水道サービス課(高村課長)  下水管路課(前田課長)  下水施設課(内田課長)</p>	
会議録 1 議題1	委員	<p>1 投資計画の変更について  2 財政計画の変更について  ～事務局から説明後、質疑応答～</p> <p>金利の見通しについて、6ページに記載の「支払利息の変更」はどのように試算したのか。</p>
	事務局	<p>前回の経営戦略のシミュレーションでは、支払利息の利率を1～2%の間で設定していたが、昨今の実際の借入では、民間資金で0.1～0.2%、政府からの借入資金も0.5%前後で推移しており、実際の利率とは大きく離れていた。</p> <p>それを受け、今後の支払利息について、令和3年度からの5年間は0.5%程度、その後、年を追う毎に利率を若干増やし、より実態に近くなるよう改めた。</p>
	委員	<p>人口減少が想定していたほどでもなかったことや、支払利息が事業を行う立場としては良い方向になり、そういう意味では、厳しいながらも経営が成り立つような形になっているということだと思う。</p> <p>現計画の中間評価を行っていると思うが、現計画に対してどういう状況なのか。例えば使用料収入については、人口減少が緩和されたことによって多少伸びるのか、また、支払利息の利率も落ちていることを踏まえると、現計画に対しどの程度変化があったのかについて知りたい。</p>
	事務局	<p>使用料収入については、シミュレーションでは41.8億円のところ、令和2年度の実績は43億円で、シミュレーションより良い方向に動いている。支払利息については、シミュレーションでは12.5億円のところ、令和2年度の実績は9.3億円で、3億円ほどの開きがある。</p>
	委員	<p>使用料収入は1.2億円増え、支払利息は3億円低くなった。その</p>

2 議題2	事務局	分、キャッシュフロー上も改善が見られたという理解でいいのか。 使用料収入や支払利息については良い方向に働いていたが、老朽化対策などの建設改良事業等により、最終的なキャッシュについてはそこまでかけ離れたものになっていないというのが実情である。
	委員	投資計画は増やしており、維持管理コスト縮減などの努力は必要だが、経営をするにあたっては良い方向への変化になっていたと理解した。
	委員	国立社会保障・人口問題研究所の出している人口推計に頼るのではなく、市が独自に出した推計によって見通しを立てたことは、財政計画が良い方向に動いていることから見ても大変評価できる。
		3 下水道使用料改定の見通しについて ～事務局から説明後、質疑応答～
	委員	留保資金のリミットとして、想定しているラインというのはあるのか。
	事務局	実際に事業を運営していくため、一定程度の自己資金を確保することが必要となる。通常の運転資金のほか、災害等にも一定程度の資金が必要と考えている。 正確な数字があるわけではないが、30億円前後の資金は最低限ないと事業運営できないと考えている。
	委員	令和9年度以降に留保資金は30億円を切っていく。民間で言う手元流動性のような考え方が。
	委員	30億円前後に根拠はあるのか。今までの経験的なものか。これだけ残しておかなければいけない、留保しておかなければいけないと言うには、根拠があった方がいいと思うが。
	委員	これは収入の半分くらいか。
	事務局 委員	使用料収入は1年間で約40億円である。 民間の手元流動性は2カ月分もないくらいであり、それと比べると金額的には大きい金額を持っていることになる。それを持っていないと非常事態に対応できないということだが、民間企業は手元に資金をそんなに多く持っていない。民間と比べて資金を多く持たなければならない根拠を精査しておいた方がいい。なぜ30億円かということについて。今までの経験値がそうだったということだが、経験値がそこに落ち着くにはそれなりの理由があったのではないかと思うので。
事務局	30億円の根拠だが、確かにはっきりした目安というものはない。現在の使用料収入は年間約40億円だが、今後は40億円を切っていく。そうした中、現在取り掛かっている加茂河原ポンプ場の更新に100億円、それが終わった後は足羽ポンプ場にも100億円近くかか	

3 議題4、5	委員	<p>り、年収の2.5倍ほどの更新工事が控えている。さらに、足羽ポンプ場の後も引き続き更新工事が控えている。大規模工事だけでなく、その他にも細かい導管の更新工事も同時並行で行っている。</p> <p>また、企業債は9月と3月が償還月となっており、9月と3月が支払いのピークである。そこに併せて手持ちの資金を持っていなければならないというのも1つの理由である。</p>
	委員	<p>これから先に大規模な工事を控えているということ、支払い方が民間と違うため、ある程度手元に資金がないと、資金ショートを起こすという考え方が、その適正規模が30億円。令和8年度くらいまでは30億円を維持できるため、そこまでは使用料改定の必要性は低いという理解でよいか。</p>
	委員	<p>留保資金の具体的な数字の出し方はないのではないかとと思われる。個々の団体の規模によっても違いはあるだろうが、福井市の支払の実態等を踏まえた必要な手持ち資金は30億円ということだと思う。</p>
		<p>4 経営基盤強化の取組について 5 フォローアップ、今後の見直しについて ～事務局から説明後、質疑応答～</p>
	委員	<p>今までも経営基盤強化のために、様々な取組を行っているが、全部大事なことなので、恒常的にやっていかなければいけない。</p> <p>この中で気になるのは人の問題。業務の民間委託や職員数の適正化などを行っているが、人は企業にとって命なので、無理にやると事業自体に軋みが出る。あまり効率化優先でやるのはいかがかと思う。働く人がいて事業が成り立つことを考慮しながら対応するとよいかと思う。</p>
	委員	<p>県と市町で広域化・共同化をするのは良いと思った。</p> <p>また、民間委託に頼らず、技術の継承は職員でしていった方がよい。民間に頼り過ぎると、市民としては不安。肝心なところは職員で押さえてほしい。</p>
委員	<p>民間委託については、今できる部分は結構やっている。</p> <p>下水道事業の本体を、職員でしっかり保持していくことに留意してもらいたい。</p>	
委員	<p>普及拡大事業は今後数年続くため、まだかなり大きい予算がかかると思う。戸別訪問による接続依頼を行うことで、下水道収入を確保するという話だったが、今後、普及拡大していく上で、未整備箇所の接続・延伸をするための要件は設定しているのか。</p> <p>人口減少の中、管などのハード設備を維持管理するのは大変だと思う。さらに伸ばすとすると、100%接続してもらえるとといった要件が</p>	

	事務局	<p>ないと、接続にも多くの費用がかかる中で非常にリスクーだと思う。無利子で借り入れできる貸付金制度以外の対策は講じているのか。</p> <p>管路の整備については、着工前に宅地の持ち主に公設樹が必要か確認し、全体のスパンで不要となった場合は整備を見合わせる等の対応をしている。</p>
	事務局	<p>今の下水道の整備区域は令和6年度で概成する予定だが、延伸すると決めた時点で、住民の要望があつての計画としている。</p> <p>工事開始前には地元説明会を行い、下水道の有効性や環境負荷低減の話とともに、全戸が接続してこそ下水道であることを説明し、接続をお願いしており、大半のご家庭に接続いただいている。</p> <p>下水道は接続義務がある。各家庭の事情もあるため供用開始後すぐにはいかないが、特に理由がない限りなるべく早く接続していただくようお願いし、概ね接続していただいていると考えている。</p> <p>今までに整備した区域と、現在整備している郊外の区域で、接続率は特に変わらない。</p>
	委員	<p>広報PR活動の中に、注目度の高い広報手段としてマンホールカードの配布とあるが、配布数はどれくらいか。</p>
	事務局	<p>令和元年度の実績は4,531枚。県内の方への配布数は675枚、県外は3,856枚である。</p>
	委員	<p>4経営基盤強化(2)事業の効率化の部分については、支出削減の観点でまとめたものだと説明を受けたが、目標値が書かれていない。計画期間が短期的なところの中では、概ね経営は良好に保たれることもあり、短期的にコスト縮減をやらないといけないものはないのかもしれないが、市民への説明を分かりやすくするためにも、一定のサービス水準を維持していくためにはこれだけの投資が必要で、維持管理コストはこれだけ縮減するという説明も、PRも兼ねて必要だと思う。</p> <p>中長期的なところは効果量の算定が難しいかもしれないが、ストックマネジメントはライフサイクルコストとあるように、建設費と維持管理費、投資部分と運転管理コスト、両方を低減していく取組なので、ストックマネジメントの取組によって運転管理費もこれくらい減らしたというのがあるとよい。</p> <p>具体的な数字が書いてあるものとして、施設の統廃合で令和4年度に浄化センターを一つ統合すると書いてあるが、例えば、それによって維持管理コストがどれだけ減るかの説明があると市民に分かってもらえると思う。</p> <p>経営戦略のフォローアップをしてホームページで公表してもらおうが、経営状態についても市民に関心を持ってもらうことが大事である。下水道事業の見える化によって重要性や役割を知ってもらうことは大事だが、一歩進めて、下水道経営そのもの、経営戦略そのものの認知度アップに向けて頑張ってもらいたい。</p>

4 その他	<p>委員</p> <p>各委員 委員</p> <p>事務局</p>	<p>確認を取らせていただきたい。15ページ 下水道使用料改定の見通しについてだが、留保資金の減少幅が緩やかで、経営戦略期間内の令和8年度までは改定の必要性は低いという話を受けた。</p> <p>この点について、当審議委員会としては承認するという方向でよろしいか。</p> <p>(うなずく委員) 「承認」</p> <p>ただし、使用料のあり方については定期的に検証していくとあるが、これは十分やっつけていかなければいけないと思うし、今後何が起きるか分からないため、フレキシブルに対応するという気概を持って、定期的に検証していただきたい。これについても当審議委員会として承認したということでもよろしくをお願いしたい。</p> <p>一点訂正をお願いしたい。</p> <p>加茂河原ポンプ場に引き続き足羽ポンプ場の整備を計画しており、100億円ほどかかると申し上げたが、足羽ポンプ場については現在計画中であるため、加茂河原ポンプ場と同程度という想定のもとの仮の金額である。金額は確定していない。</p> <p>第3回委員会の日程 11月4日(木) 14時～ 301会議室で開催</p>
-------	--	---